

## 病害診断の現場から—イネ墨黒穂病—

診断依頼のあった事例を紹介します。今回は、イネ墨黒穂病の軽度な症状です。



典型的な症状



軽度な症状

**イネ墨黒穂病**の典型的な症状は出穂後、内外穎の間から黒色の舌状突起物を生ずるものです（左）。舌状突起物は糠層下に形成された厚壁胞子の塊であり、形成当初は粘性をもつため、旺盛に形成されるとはじけて突起物となり籾の外に現れます。

しかし、**軽度な症状**では、厚壁胞子は糠層下に留まり、舌状突起は生じません（右）。



軽度な症状の拡大

厚壁胞子は、形成が少ないと、舌状突起物として弾けず、糠層の下に留まっており、外見的には一部分が黒色の玄米になります。

左の画像の状態では、まだ墨黒穂病とは確定できず、なんらかの汚れの付着の可能性も残ります。しかし黒色部分がやや凹んでいるので、汚れの付着にしては不自然です。



黒色の部分にセロテープをあてて、剥ぎ取った後の画像です。糠層が剥がされた下から、夥しい黒色小粒が現れました。

一つ上の画像とともに実態顕微鏡の接眼レンズにスマートフォンのカメラレンズをあてて撮影しています。特別なアダプターがなくとも十分な画像撮影ができます。

最後に確認のため、黒色小粒をセロテープで移し取り、光学顕微鏡で観察します。墨黒穂病の黒褐色の厚壁胞子が観察されました（下）。

症状としては軽度なのですが、厚壁胞子が玄米状態になっても残存するので、糠層が破られた場合、付着汚染被害は、かえって増加する可能性があります。

